▲九州大学伊都キャンパス。東側から糸島市を望む（後方は可也山）

特集

九州大学 × 糸島市

九州大学とのコラボで、糸島はもっとオモシロクなる！

伊都キャンパスと糸島―九州大学 理事・副学長 安浦 寛人さん

地域と共に発展する大学

教育・研究と並び「社会貢献」が大学にとって第三の使命とされる現在、九州大学では「タウン・オン・キャンパス」あるいは「都市と共に栄え市民の誇りとなる大学」として、周辺地域と連携した大学づくりを行っています。

「総合研究の拠点」である伊都キャンパスは、泳げる海や美しい田んぼまで歩いて行ける距離。世界的教育の場・知の拠点が、こうした環境にあることは極めて稀で、日本のどこにも真似できない魅力です。

糸島のもう一つの魅力は、そこに「新しいまち」をつくる余地があることです。大学の実験室での研究結果は、社会への本格導入の前に、あらゆることを実証実験する必要があります。その新しい技術を"現場"である周辺地域で応用するにあたり、糸島は最適な地と言えます。例えば、学生、一般市民、観光客など、いろんな人が行き来する糸島の特性を生かし、電動サイクルの普及を計画中です。普段は学生や大学職員が利用する電動サイクルを、土・日曜日はレンタサイクルビジネスと結び付けて、観光客が糸島一周ツアーに利用する。そこに携帯電話へのナビゲーションシステムを導入すればどんな効果が生まれるかなどを検証していく計画です。他にも、学生証に組み込んだICカードを使ったコミュニティバスの運賃支払いや学生アパートの管理、窓ガラスに貼るペーパー式太陽電池の実験など、さまざまな分野に及びます。糸島は研究・教育の場であるとともに、研究成果を社会へ出すためのステップの場として、今後大きな意味を持つのです。

さらに、糸島市から地域の課題を大学に出してくれるおかげで、大学は地域という現場を持つことができていますが、その上、研究に対し助成金も出していただいています。これは実に画期的な取り組みです。大学と地域との連携協力のモデルケースであり、糸島市は極めて有り難いパートナーであると認識しています。

世界に向けた学術研究都市へ

今の日本の風潮として、東京に行かなければ世界的な仕事ができないと思われていますが、決してそんなことはありません。世界はどんどんフラットになり、インターネットでさまざまなサービスが提供される時代です。

この地域が次世代技術の実証実験の場となり、それに付随して新たな産業が生まれれば、九州大学卒業生が糸島で起業し、世界的な仕事を行うことができるようになります。卒業生が仕事の合間に大学に寄って情報交換ができ、学生が先輩の背中をいつも見ることができる距離にあることはとても理想的で、この環境がうまく機能すれば、スタンフォード大学とシリコンバレーのような関係にもなり得るのです。高い専門技術者が10人いれば、100人の雇用が生まれ、さらに1000人の雇用が生まれます。そうしたジョブマーケット（就職市場）をつくり出すことが、これからのまちづくりに欠かせない観点といえるでしょう。その核の一つとなるのが糸島リサーチパークです。「水素エネルギー製品研究試験センター」や「三次元半導体研究センター」が稼働する今、こうした環境づくりが実現しつつあります。

地元で先進的な仕事を

伊都キャンパスは垣根がない「オープンキャンパス」です。一般の人も、図書館での本の閲覧や、食堂の利用が可能です。九州大学入学をめざす中高生には、ぜひ伊都キャンパスへ頻繁に足を運んでもらい、さまざまな催しをとおし実験を見学するなどして、大学がどんなところかを知り、心の底から「ここで勉強したいんだ！」という思いが沸々と湧いてくれたらうれしいですね。

そして地元から九州大学へ通い、将来はこの糸島で世界に通じる仕事ができたら素晴らしいですね。

九州大学 理事・副学長
安浦 寛人さん

大学にとって
地域はたいせつな
"現場"なんです

九州大学伊都キャンパス。
センターゾーン玄関口

将来、糸島が
世界的な仕事の場に
なるでしょう

組織ぐるみでの連携推進
～九州大学との連携協力協定を締結～

固い握手を交わす有川節夫九州大学総長（左）と松本嶺男糸島市長（右）

国内屈指の基幹総合大学として国内外に多くの有望な人材を輩出しているだけではなく、アジアを重視した知の世界的拠点大学として、多くの留学生が学ぶ九州大学。

糸島市では、この九州大学が持つ人的・知的資源と、本市が持つ地域資源を有機的に結び付け積極的にまちづくりに生かしていくため、長期総合計画の重点プロジェクトの一つに「九州大学を生かした地域づくりプロジェクト」を掲げています。

また、九州大学との結び付きをより強めるため、糸島市と九州大学は平成22年5月29日に、連携協力協定を締結。九州大学が持つ知的資源や若い学生の活力を地域活性化に生かすことや、逆に市が持つ豊かな地域資源を研究活動に生かしてもらうことにより、両者がお互いに発展していくことを目的としています。協定の主な内容は、

①九州大学と糸島市が有する資源の相互活用
②九州大学と糸島市民との交流の促進
③伊都キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり

現在、この協定に基づき、大学と市とで組織的な連携事業を積極的に行っています。